今回3ヶ月ですよね。初めてですか？これだけ長くやるのは

そうですね。3ヶ月は。以前大阪の箕面で展示させて頂いた際に、ちょっと延長して3ヶ月というのはあったけど、これだけ大規模なところで、最初から3ヶ月というのは初めてですね。

ちゃんとした美術館でまとまった点数を展示するのはこれが初めて？

10周年ですね。

アーティスト活動10周年？

そうですね。いちばん最初の個展を開催したのが10年前です。

それはニューヨークのときの居酒屋ですか？

お寿司屋ギャラリーです。横浜と一緒。日本に最初に帰ってきてからの寿司ギャラリーだったんですよ。

そこでやってからの10年の集大成なんですよね。

そうです。

ここでは一番古い作品が2017年ぐらいですか。アトリエで拝見した和綴じのやつとかそのあたりが一番古いやつですか？

多分、入口入って右っ革の黒のものが一番古いかな。

あれは銅版画と組み合わせているんですか？

あれはリトグラフです。違う、フォトリゾ。写真のゼロックスのインクを転写してやる違う版画の手法です。フォトリゾ。

モデルはご自身ですか？

自分です。Me and my dear なので、私と私の親愛なる人というタイトルで。

切り絵ですけど、切り絵とこれまでやっていた銅版画を組み合わせた作品とかが多いですよね。

ほとんどそうですね。切り絵と銅版だったり、切り絵とフォトリゾだったり、切り絵とサヤノタイプ（青写真）。昔の写真の現像法とか、それくらいかな。水彩画だったりとか。

水彩画ありましたか？

うん、後ろのほうが水彩画でしたね。背景が。

手彩色なんですね。いろいろ細かく調整を。この間の個展の銀座のやつも・・・

うん。

全部で難点でていますか。

53～4点ぐらいかな。大きくカウントして53で、森のレイヤーが150～160あって、それを1点1点カウント、結構デザインが違うんですけど、、150枚を1作と考えてその点数です。

作り始めはいつぐらいからですか。

インスタレーションは、立春の次の日です。次の日に、九州の展示が終わって、次の日からはじめました。

最初に取材をした時は作り始めていらっしゃったのですね。

うんうん。あの手前に神戸に行っていたので、神戸では小さいものをやって、コロナになっちゃって、変えるのが遅くなって、移動制限が解除されて、すぐに神戸に戻りました。

今回、銀座の展覧会とのテーマって違っていますか。

今回のテーマは「巡る命のルーツ」といって、10年目の集大成じゃないですけど、もっとルーツ、やっぱり木とかって土で埋まっちゃって見えないんですけど、幹よりも下の根っこの方が深くて、嵐とか水害とかあっても、根っこがしっかりして支えていれば、立っていられる。ぶれない、動かない。如何にねっこが大事かっていうことですけど、やっぱり人間からは見えない。隠れてしまって見えない。そこが全てつながっていると思って。いつも作品全体に入れている見えないつながり、見えないところ。たとえば、本でも作品でも中が細かく切ってあるのは、見えないところを切ってある。見えなくてもつながっていたり、見えなくても、お天道様が見ている。自分が見ている。誰も見ていなくても。というので、同じテーマです。根っこ。見えないところが大事だったりとか、そこに如何に意識とか目的とかを置くか。さっきトークショーでも喋ったのですが、何か仕事とかやることにしても、例えば料理を作るのにしても本当にあーもう疲れた、なんで作っているんだよっていう料理と、楽しくて愛情を持って作った料理って同じ調味料を使っていても味が変わってくると。掃除もそうで。例えばトイレ掃除も、あーすっきりした、これでみんなが喜んでくれるってやるトイレ掃除と、文句言いながらやるトイレ掃除、全部仕事ってそうだと思います。子育てとかも。人間関係全部。それって、言葉にしなかったら思っている感情や思考って見えないじゃないですか。それを見えないところ。作品の見えないところに通じて、行いにも通じる。そして木の根っこ、支えている根っこ。私達の根っこって、支えている感情、あり方、心がどうあるかというのを決めていくと思うんですよ。心があって行動になってきたりとか。気持ち、どういうふうに広がっていくか、というふうになるので。

なので、根っこであると表現したんですけど、人間の根っこっていったら、心、フェイスっていうのが如何に大事か。根っこがどうあるか。こう広がっていって、水を求めて広がっていく根っこ、私達の根っこはどっちに向けて広げていくか。。というそれぞれに、そういう理屈をぐちぐち・・・ではなくて、展示を見てもらって、感じてもらえたら、人間本来のあり方を。いいなーと思って、今回はそういうテーマになっています。全体が。

展示の最後にあった、人体のパーツを銅版画でパーツの中に人が住んでいて・・・というのは今回始めて見たのですが、あれは最近の作品ですか。

結構前から作っていて。中を見ながら流れになっているんですよ。軽く説明していったほうがいいかも。（中に行く）

展示スペース結構広かったですね。

まずいちばん最初は「Me and My dear」本当にうつというか闇の時に切り絵を始めたので。イメージとして、堕天使です。ルシファー。人が最初赤ちゃんで生まれてきた時にキレイに生まれてきて、いろいろな経験を積んでいくうちに、いろんな壁や闇にぶち当たって、本当に落ちて光の見えない時の状態。だけどそんな状態でもいつも後ろで何かが守ってくれるんですよ。ちゃんと。何かするでもなく、見守ってくれるという。それが自分と重なっている私の後ろの親愛なる存在。これが一番最初の作品で、2014年の作品です。

これは販売せずに大事に持っているのですね。

これはNOT FOR SALEです。

そして、これがフォトリゾですか。

そうです。フォトリゾ。

凄い素敵ですね。映えると言うか。インパクトのある作品です。

そこから、協会に行っている時に、ステンドグラス越しの光が入っていて、「はーっ」て思って小学校の時の切り絵を始めて、そこから光が見えてきた気がして、一番言うなら死んでいる状態、闇の底から「黄泉がえり」という作品になっているのですが、黄泉の国から帰ってくる。

渦巻いている感じが。

そうですね。右向きの渦巻。ここは全部身体がない状態から銀河を通って魂が銀河の夜明け。やっと闇から夜明けの状態に東と西となっていて、東と西って実はなくって、みる視点に大小上下、見方が変わってくる。で、これが羽衣という作品で、これがミクロとマクロです。これをどこから見るか、魂がグワーッと宇宙を通って、これはマルペンサの空港で展示した。これ、ずっとパリに置いてあったんです。今回送ってもらって。

最初に入ってきた時に見栄えがしますね。

それで雨の岩戸が開いて・・・

以　　　上